

ハンザキの里帰り

2007 年からオオサンショウウオ保護センターに収容していたハンザキが元の川に返されることになりました。市川に造られた生野ダム下流の河川工事が終了したのです。ここは山がずれてきて川をほぼ直角に押し曲げて道路が狭くなっており、積雪時には除雪車の作業で歩道がなくなってしまう場所でした。山がずれてくるのを押さえて川を元の位置に戻し道路を拡幅する工事が 3 年がかりで実施されて来た所です。昨年度で河川内の工事が終了し、後は道路部分の工事が残されているだけです。3 年間もの長い間狭いプールで生活していたハンザキたちを元の川へ戻すことになりました。

河川工事は生物に配慮した工夫がなされてのことですが、人間が考えたことがそのまま自然の世界で通用するかどうかは難しい所です。そのために約半数のハンザキを原状復帰させ、追跡調査を実施して、その結果によって残りを戻すことになりました。3 年間の飼育は、途中から当法人が委託を受けましたがハンザキ研としての責任は重いものがあり、私は 1 年の内のほとんどを研究所で過ごす事になりました。昨年は 351 日と言う滞在新記録を打ち立てました。

放流は 6 月 20 日 10 時 30 分から生野小学校 6 年生の手によって行われます。出石川における放流では、危険な生き物を小学生に持たせるとはけしからんと抗議電話が文化庁までなされた由です。しかし、扱い方については事前のレクチャーを行い、傍らには大人が付いてのイベントでした。画面だけ見ての意見だけではなく、この経験をした子供たちが将来の市川のハンザキの保護者になってくれることを念じてのことだと理解していただきたいと考えています。皆様も時間があれば是非ご参加ください。